

新教育委員長の方針

一人ひとりの存在、良さを認めることから

教育委員長 依田 秀人



先行き不透明で将来に希望が持てない——これは、若者のみならず全世代の共通認識でしょうか。こうした時代だからこそ、人間としてのたくましさ、生きる力が求められています。が、ともすれば「競争に勝つこと」が目的達成の手段になってしまうのも事実です。

下諏訪町の教育を考える際に、まずは「一人ひとりの存在、良さを認めること」から始めたいと思います。認められることは自信になり、自信が自立となり、

人への思いやりに発展します。

こうした人間力形成のために、物心両面からサポートできる教育委員会でありたいと考えます。

保育園の三園体制は三年目に入りました。「せせらぎ園」や「おはなしの広場」の併設、子育てふれあいセンター「ぼけつと」の運営により、子育てや幼児教育の環境は充実しています。会話を重視した英語教育は、コミュニケーションツールとしても大きな役割を果たしています。小中の交流を増やすことで連携は深まり、下諏訪版小中一貫教育の可能性についても議論が始まっています。月一度の「家庭

読書の日」は定着し、マンネリ化に陥らないための努力や宣伝がされています。学校地域支援本部の活動は多面的になり、学校にとって、なくてはならない存在になっています。

教育問題に関しては、様々な団体や立場、さらには同じ町に住む住民として、色んな意見や提言をお持ちだと思います。ボランティアとして子どもたちに携わる人たちが、地域住民を巻き込んでの教育懇談会も十月に開催されました。

まずは教育現場を見ること（知ること）、教職員や子どもたちなど現場の声を聞くこと、

新年の決意は自己開示から



桜町 濱 隆元 たかもと

新年を迎えると、新たな気持ち湧き起こさせてくれる。

今年は何をしたか、今年こそは〇〇をしたいと言った感じで、自分の中で何となく新年の抱負を抱いてみる。仕事のこと、家庭のこと、自分自身のこと、過去にできなかったことを思い出しながら走馬灯のように色々と駆け巡っていく。漠然とではあるがポジティブな気持ちになり、「やる気」になることは間違いない。

しかしながらその抱負などを計画にしたり、実行したりしたことは残念ながら数少なく、いわゆる企画倒れがほとんどであ

る。内に秘めた闘志は強くても、月日が過ぎていくに連れて薄まってしまうのが常である。

それはなぜか？誰しもが分かっていることだと思いが、それは自己開示をしないからであると思う。強い信念を持って実行できる人はそれで十分だと思うが、誰にもそのことを告げていなければ途中で止めてもいいや、もしくは最初からできなくてもいいやと言った人間の弱い部分

が勝つてしまい、毎年同じ繰り返しをしてしまうのだと思う。新年になると毎回このようなことを思い出し今年は何とかなければと思うのだが、具現化せずともやめた感じで正月が過ぎ、「一年の計は元旦にあり」

もどこかへ置き忘れ去られてしまふ。

長い前置きとなりネガティブなことを語ってしまったが、一年に一度、折角気持ちを新たにさせてもらえる機会を頂いているのだから、今年こそは先に述べた反省をもとに自己開示をして計画を実行したいと思う。

社会人となつてからは、自己啓発のために幾つかの資格や検定を受検し資格も取得したが、アラフィフ（五十歳前後）ともなると新しいことにチャレンジするのが億劫になる。だが、今年はずいぶりに自身を鼓舞して検定試験にチャレンジしてみようと思う。それは英検である。八年ほど前に英検二級を受検したが合格とはならず、そのまま挫折してしまつた。最近はずいぶんに「勉強しろ」が口癖となつており大分煙たがれた存在となつているが、子どもにはただ言うだけでなく親も努力している姿を見せ、言葉ではないメッセージを感じ取ってもらいたいと思

う。ハードルは高いかもしれないが今年の目標は英検二級のリベンジである、と同時に自己開示をして人間の弱い部分が勝らないように有言実行といきたい。この原稿を書いていることがまさに自己開示である。

人生の節目となる時期は幾つかあると思うが、その中でも大きな節目となるのが新年だと思ふ。このようなタイミングをきっかけに、人生を見つめ直したり新たな決意をしたりすることは大切なことなのだと思う。「一年の計は元旦にあり」、私はこの言葉に自己開示することを加えたいと思う。

